

中青連一五年を迎える

昭和51年1月10日、東京
・神奈川県青年館で中央青少年
団連絡協議会創立一五周年記念
式典が開催された。
中青連は昭和二年、戦後の教
育改革による誕生の青少年団体
の連絡協議機関として創立したも
の。

年未懲役会が開催された。
中青連は昭和二年、戦後の教
育改革による誕生の青少年団体
の連絡協議機関として創立したも
の。



創立当時を語る歴代役員

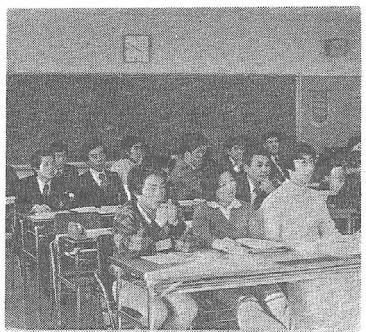
分科会報告

レクにより「和」
を、

第一分科会=「アクト活動を考え
よう」(郷土正春中常委担当)の参
加者は九名で、ソトを活動の中心
とした支部が、あるやらない支
部が集まつたが、だいたいの支
部はソトを新入生の手数として
行つて参加者の名簿はあるが、
その後の参加者への手配がな
く、参加者も「一眼ら」となつて
いる。

国際交流の再認識

後の一回の研修会では、各
自に与えられた最大の課題であ
る。今回の分科会においては、
三討論した結果、不十分と反
対する。(村瀬治・中央委担当)
友愛青年運動改めて、国際活動
は二〇数年歴史がある中で、今
う、一つは友愛の国際活動にお
ける役割、他団体の受け入れ、派遣
事業の違いをつかり認識する。
二つめは国際問題の独自の組
織を頭懸にして、それを確立する
き、



笑顔の中にも厳しさを=研修中

ボランティアの高揚を!

第六分科会=「ボランティア活
動への取り組み」(岡本省三常
委担当)について話し合われた。
会員はボランティア活動に反対
するのではなく、どうやって理
解されるか話題に集中した。

① 福祉グループ(行政・民間)
の活動の中から意識を高揚する
② 「百聞は一見にしかず」の通
じり、活動に参加させ理解をうなが
す。
③ 搞社会の貢献をさせ問題題

議を進めた。
④ 友達の三原則を学ぶ中からボ
ランティア活動の必要性を認識さ
せる。

活動を、

紙面溢れる程の

活動を、

第四分科会=「普及・広報活
動の役割」(松井社・中央委担当)

各部の活動方法などを広報
活動は外的にも対外的に非常に
に意識の高いものであるために
各部の広報に対する意の高い程が
出づた。各部機関紙を中心に
資金、原稿を継続的に発行する
資金のみな意見は提出であつ
た。

現在、展開されている「友愛の

会員がつくる運動」においても
この活動を社会一般に知らしめ
る。機関紙の有効的な利用は、支
部のボロマスターといふとの
意見の一致を示す。

（例）世界青少年交流会

青少年白書(昭和五年版)を発表

—現代の青少年の生育過程を跡付け—

昭和五年版の青少年白書は、去る一月九日の閣議に報告され、了承後、発表された。

(家庭)

(青年)

(社会)

(経済)

(文化)

(教育)

(政治)

(農業)

(生活)

(健康)

(文化)

(経済)

(政治)

